

## FIS・秋季コンバインド委員会

日時：2009年9月25日（金）14:00-16:00

場所：スイス・チューリッヒ Hotel Hilton Airport Room London A

1. 開会
2. 出席確認
3. 議題の確認
4. 議事録の確認
5. 2009サマーグランプリの分析と報告

### ◎ サマーグランプリレポート (Walter Hofer)

- 新システム（ゲート、風の影響をファクターとして得点計算システムに組み込み、そのことからジュリーは競技中にゲートを上下に変更でき、またコーチは自分の判断でゲートを一段下げられる）をテストとして GP 中導入してきて様々な反対意見を覚悟してきたが、コーチ、選手、また役員等の評価は驚くほど良好であり、各方面からの批判等も特に聞こえてこなかった。
- コンバインドではコーチが積極的にゲート変更のルールを使用した。その結果、Val di Fiemme 大会では K 点を越える選手が全体の 10% に満たない試合となったことから（他の 3 試合は約 40～50% の選手が K 点を越えた）、試合終了後に FIS 役員で協議し、ルールを追加した（競技ラウンド中にある選手が HS の 95% を越えるまでコーチがゲート変更をできない）。
- スペシャルジャンプの白馬大会までは TV および観客へのわかりやすい解説等は TV グラフィックの開発にはお金がかかるためできなかったが、Klingenthal では初めて新しいグラフィックを使用する。

### 新システムのテストを冬季シーズンも継続する

- このルールの継続に関して票決を取り、全会一致でテストが継続されることになった。
- このルールに変更点、もしくは追加事項がある場合はジャンプ小委員会のエキスパートと NC 委員会の委員長が協議し、各国スキー連盟にアナウンスする。

### コーチのゲートダウンは今後できないこととする。

- サマーグランプリでテストしていたコーチによるゲートダウンは反対票 1 で否決された。

### バンクーバー五輪でのこのシステムの採用について

- バンクーバー五輪に関しては、昨シーズンまでのルールで競技を実施することが IOC と FIS 間で同意されているため、現時点で新システムをオリンピックで適用するかは IOC の判断に委ねられている。

6. ワーキンググループ「ローラースキー」からの報告

◎ ワーキンググループレポート (Ulrich Wehling)

- サマーグランプリで使用する用具について各国スキー連盟にアンケートを送付し、16ヶ国から回答があった。ほとんどのスキー連盟がローラースキーの使用に要望している。
- ローラースキーのサポートが可能なメーカーを見つける。
- ローラースキーのルール作る。
- 次回の会議をバンクーバー五輪期間中に行う。
- ローラースキーに関するルールについては FIS 春季会議－ファンネルシステム－FIS コンバインド委員会の順で話し合い決定する。

7. カレンダー

- 2010 サマーグランプリ
- 2010－2011 ワールドカップ
  - 1月15日、16日 札幌

8. プレゼンテーション

- 2011 世界選手権 (オスロ)

9. その他

- TD ノミネーション
  - 2011 世界選手権 (オスロ) : Joe Lamb(USA)
  - 2011 ジュニア世界選手権 (Otepaa) : Jarko Mantila(FIN)
  - 2011 ユニバーシアード (トルコ) : 未定

10. 次回の会議

- 2010年4月9日～10日 Annecy (フランス)